

コロナ禍を超えて

歯学部生の活動～コロナ禍を超えて～

歯学科2年 稲葉達也

はじめまして、歯学科2年稲葉達也と申します。私たち第56期が2年生に進級してから早いもので3か月が経とうとしています。気づけば梅雨入りの季節となり、夏休みを待ち遠しく感じる今日この頃です。多くの方が勉学や部活動に打ち込み、充実した学生生活を過ごしていると思いますが、最近でこそ落ち着いた生活に戻りつつありますが、コロナ禍においての生活は大変だったことも多かったように感じます。コロナ禍という状況を踏まえて、去年から現在に至るまでの生活を振り返ってみます。

私たちは去年の春、コロナの感染が増え始めているという状況下で入学しました。入学式は行えるはずもなく、運動会や学校祭などの行事も軒並み中止となり、大学の授業もすべて非対面という形式になってしまいました。入学当初は大学に関して知らないことが多く、漠然とした不安に駆られた人も多かったのではないかと思います。また、緊急事態宣言下で自粛生活を余儀なくされたため遊びだけでなく部活動やバイトなども制限されてしまいました。このように友人との交流の場がほとんどなく、思い描いていたキャンパスライフとは少し異なる形での大学生活が始まりました。

このように大変な状況の中で、初めて交流の場が設けられたのが1年後期のガイダンスでした。私自身、これがきっかけで友人関係が広がった気がします。これ以降感染対策に十分留意しつつ遊ぶ機会が増えていき、楽しい大学生活がようやく始まったという実感がありました。こうして1年

生としての一年間があっという間に過ぎていきました。

そして今年の春、私たち第56期は無事に2年生に進級することが出来ました。2年生からは授業内容が専門的になり皆が勉学に追われる多忙な日々を過ごしています。試験においても1年生の時とは比にならない難しさですが、学年で誰一人として弱音を吐く人はいません。それは皆で支え合おうとする意識が強いからだと思います。これはコロナ禍で入学した私たちの学年特有の良さだと思います。これからもお互いに刺激を与えあって、より学年の団結力が深まっていければいいなと思います。

この原稿を書きながら今一度振り返ってみると本当にあっという間に時間が過ぎていることを実感しました。コロナ禍を超えて私たちはお互いに信頼しあえる、高めあうことのできる仲間の大切さに気付きました。今日という一日を無駄にしないように友人と切磋琢磨しながらこれからの学生生活を過ごしていきたいと思います。また、これから学年が上がるにつれ大変なことや辛いことが増えていくかもしれませんが学年全員で協力し合って乗り越えていきたいと思います。



写真撮影時のみマスクを外しました

歯学部生の活動～コロナ禍を超えて～

歯学科2年 松田 珠 璃

コロナが世界を変えた。2019年12月、突如現れたCOVID-19により我々の生活は変化を強いられた。お店に入れば消毒薬、町を歩けば皆マスク。蒸し暑い夏にもマスク着用とあればコロナよりも熱中症による身の危険を感じるのも無理はない。“有為転変は世の習い”と雖もこれはあまりの大転変であった。大学の講義も例外でなく、モニター越しにしか先生の顔はおろか同級生の顔も知らないまま2学年に進級した。さてこんな異常事態も当たり前になった今日この頃、非常にありがたいことに私は大学に通わせていただいている。

一年次の教養科目から一転、二年次ではいよいよ本格的に基礎医学的な科目を学ぶことになった。全講義のうち半数が対面で実施されることとなり、勉強においても人間関係においても大学生生活の新たなスタート地点に立ったばかりの4月はそのギャップに当惑したものである。一年生の時に先生方から話に聞き、先輩方から脅されていた二年生前期の忙しさは私の想像を容易に超え、学校の勉強に追われると一日が本当に24時間あるのか疑いたくなるくらい、毎日が夢くも一瞬で過ぎてゆく。しかし不思議とその忙しさが心地よい。昨年度の新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大により学生である私の生活にも大いに影響が及んだ。ステイホームを余儀なくされ、授業は全てオンライン、部活動は言うまでもなく活動停止で新歓もない。早期臨床実習、歯学部運動会など楽しみにしていた大学イベントのことごとくが止むを得ず中止となり、起伏なくどこか物足りない日々を送っていた。そのため、何事にも思い切り打ち込める今が私にとってはとても有意義な時間となっている。最近、私にとって大学では初めてとなる対面でのテストが実施され二科目の理解度を試された。高校までの勉強は問題集を解いて授業内容の理解を深めるというのが普通だった。しかし大学の勉強は全く異なり、問題集がないため主体的な勉強が求められる。そんな勉強方法の違い

に戸惑いを覚えつつも自分なりの方法を模索し、確立しているさなかである。また、私は高校時代物理選択であったため生物学の知識が幅広く要求される科目には中々骨が折れた。初見の用語のオンパレードで脳はオーバーヒート寸前。そのようなときは周囲の友人と教え合い、理解度を確かめ合うことで何とか試験という山をひとつ乗り越えることができた。未だ新型コロナウイルス感染拡大を危惧して授業が主に非対面形式となり、大学に通えていない学生さんが全国に大勢いる中、このように友人と勉強の苦勞を分かち合い、たわいない会話で笑い合う、という当たり前のように当たり前でない日常が掛け替えのないものだということを実感しなくてはならないと感じている。

新型コロナウイルスのワクチン接種が急速に拡大しコロナ終息に期待がかかる中、ワクチン接種では終息しない可能性も指摘されている。私自身も二回の接種を完了したものの、世間には新型コロナワクチンに関する情報が錯綜しており、その氾濫する情報の洪水に溺れかかって果たしてそれが英断であったかどうかの判断はつかない。コロナがいつになったら終息するのか、いつになったら以前の生活を取り戻せるのか、そんなことを言えばただ鬼が笑う。明日コロナ感染者の数を急に0人にすることはできないが、私の明日は私の意志でどうとでも変わる。そんな心持ちで今日もまた精一杯生きる。



令和2年度バレーボール部新入生歓迎会
及び卒業生送別会にて
現2年生メンバーで談笑
(写真撮影時のみマスクを外しました)

歯学部生の活動

歯学科3年 野村陽菜

2年生から3年生に進級して、およそ3か月たちました。昨年は、コロナ禍ということで、オンライン授業ばかりでした。しかし、今年はコロナ禍という状況に変わりはありませんが、対面授業や実習が増え、専門的なことを学び始めました。旭町キャンパスに移動して、ちゃんとした対面授業は今年がほぼ初めてといった感じでした。そのため、まずは「登校して、授業を受ける」ということに慣れることからスタートしました。

ようやく慣れた現在において、最も印象的であることは、人体解剖学実習です。解剖学実習が“3年生と言え”という授業だと思います。まだすべての工程が終了したわけではないのですが、想像以上に大変で、驚きました。私にとってご遺体を見るという経験は、ほぼない状態であったため、一番初めの「ご献体との対面」は衝撃的なものでした。また、初めて生身の人間を解剖するため、メスを入れることやピンセットで結合組織を除去する作業にも抵抗がありました。実習が進むにつれて器具の使い方（メスの使う場面やピンセットを使用するときの力加減など）に慣れていきました。実習において、驚くことはご献体での構造と教科書や資料での構造は全く異なるということです。神経の太さや血管の走り方、筋の厚みは本当に人それぞれで、左右で血管や神経の走り方が異なるときは驚くと同時に面白みを感じました。また、実際の構造と教科書の構造には、ずれがあるものの予習を行ってから臨むことは重

要だと感じました。予習を行ったうえで、ご献体を解剖していくことで、どのあたりにどんな神経、血管が出てくるのか予想できたり、筋はどのように走行しているのかを考えたりすることができます。これにより、座学で学んだ知識の理解を深めることや、座学ではうまく理解できない内容を理解することができると感じました。人間の体がどんな構造をしていて、どのように働いているのかを知ることができるため、人体の構造に興味を持ちました。さらに、自分の体の構造にも興味を持ち始めました。

実習は、頭と体をフル稼働させて進めたり、とても緊張感のある口頭試問が行われたりするため、とてもハードです。しかし、内容は興味深く、濃いものです。実際に体を見るということは今後できない経験であるため、これからも予習復習を欠かさず、自分の知識を深めていきたいと考えました。

今年もコロナ禍ということもあり、対面授業があったり、オンライン授業があったりと授業形態が様々ということなどもあり、毎日があっという間に過ぎていきました。6年間の学生生活は、長いと思っていましたが、思っている以上にあっという間に過ぎていくのではないかと感じました。そう思うと、専門的な知識を学び、身に付けるまでには時間の猶予があまりありません。また、コロナの影響により、できることに制限があるかもしれません。しかし、専門分野の学習が始まる今年、将来の自分について考え始める必要があるとともに、これまで以上に気を引き締めて授業に臨んでいくことが重要だと感じました。

歯学部生の活動～コロナ禍を超えて～

歯学科3年 田中千尋

昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大により、ほとんどの授業がZoomや自習になりました。五十嵐キャンパスでの一般教養を終え、これから専門の勉強が始まるというタイミングでそのような状況になり、不安でいっぱいでした。慣れないオンライン授業、想像以上に膨大な学習量、同級生とも会えない中で続く数々のテスト。乗り切るのが大変でした。だからこそ今、対面授業に解剖実習、早期臨床実習Ⅱなど、色々対策しながらですが普段通りに学ばせていただいていることを嬉しく思うとともにとても感謝しています。仲間と共に学ぶことは、楽しいだけでなくモチベーションも高まり充実しています。

3年生といたらやはり解剖実習だと思います。一生の中でも滅多に経験することのできない貴重な経験をさせていただいております。身体の隅々まで解剖して、教科書では見ることのできない実際の人体の構造を観察しています。二次元的な教科書とは異なり、ご献体は三次元的で、それに加え、個体差もあり、より複雑性が増していました。解剖実習も残るところあと数回となり、ご献体を解剖することで自分は医療者になるのだという責任感が芽生えてきました。最後までしっかりと予習復習をして臨み、一つでも多くの知識を

身につけることはもちろん、人間として、医師として大切にすべきものは何なのかをしっかりと学び取っていきたいと思います。

また、早期臨床実習Ⅱも毎週とても楽しみにしているカリキュラムの一つです。早期臨床実習Ⅱは、1年生の時に行われた早期臨床実習Ⅰとは異なり、基礎科目と臨床科目との関連を強く感じています。各診療科における実習2、3回に一度、基礎科目の講義が行われており、実習においても解剖学や歯科理工学、微生物学などの基礎科目を意識する場面が多くありました。ムーグ Simodontデンタルトレーナーや歯科用顕微鏡も体験させていただき、後期から始まる実習にも心躍らされているところです。

最後に、このような状況の中ですが、様々な対策をして私たちに通常通りの経験を与えてくださっている先生方に心から感謝申し上げます。新潟大学では、1年からある早期臨床実習で、歯学の基礎を実際の病院で見学することができたり、5、6年では病院に出て直接患者さんと触れ合えたりと、学生のうちから歯科医師として自分を高めていける環境があります。また、シミュレーターがたくさんあるなど、病院で患者の治療に当たる前により実践的な実習を経験することもでき、臨床を学ぶのに最適な環境であると思います。これからも、そのような恵まれた環境で学べることに感謝し、志高い仲間と共に切磋琢磨しながら頑張っていきたいと思います。



人体解剖学実習、解剖班のメンバーと

歯学部生の活動～コロナ禍を超えて～ コロナ禍から得たもの

歯学科4年 山内 瑞起

新型コロナウイルスが私たちの生活に大きな影響を及ぼすのではないかと、私自身が強く不安を感じ始めたのは、2020年2月頃であり、それは私が3年生になる春休みであった。3年生では、実習を除くほとんどの授業が非対面式となった。部活動や学校行事も中止となり、大学生らしい生活を送ることはできなくなってしまった。あれから1年経った今、私たちの生活は少しずつ変わり始めている。

変化した点の一つ目は、授業形式である。4年生前期では、感染対策の徹底の上でほとんどの授業が対面式となった。非対面式授業と比較して思うことは、対面式の方が伝えやすさ・伝わりやすさに優れていることである。これは、先生と生徒間や生徒同士のコミュニケーションの質が良いことを示し、学習を効率的に行うには対面式の方が良いと感じた。また、対面式授業では友達と会うことができる。友達と話をしたり食事をしたりすることは、とても楽しく日々の生活に欠かせないと感じる。二つ目の変化は、部活動の再開である。私はバドミントン部に在籍しており、仲間と運動をしたり会話をしたりすることは、大変楽しく気分がリフレッシュされ、私の生活に欠かせないものとなっている。

以上二つが、大学生活において1年間で大きく変化した点であり、元の生活にかなり近づいたと感じる。そして、コロナ禍の生活は不自由で大変なものであったが、それと同時に自分を成長させてくれる時間でもあったと感じる。

その一つが、医療従事者としての自覚である。コロナ禍の行動は自分や他人の感染に大きく影響を与えてしまう。医療従事者になる上で、移動の自粛やマスク・消毒の徹底などの適切な行動を心

がける中で、どのような行動が必要であるかを考えさせられた。また、医学知識の重要性を認識することができた。今回の新型コロナウイルスでは、どのような感染経路で感染するのか、特徴的な症状はどのようなものであるか、などの知識を得ることで適切な感染対策がわかったり、早期発見が可能となり、患者さんや身近な人の命を守ることができる実感した。二つ目に、自立力である。コロナ禍では授業が非対面式になり、自主学習の割合が増えた。自分でどのように学び、どのような計画を持って進めていくのかを求められた。学習のみに限らず、生活リズムを保つという面でも自分の計画性や自制心が試された。三つ目に、日々の生活に対するありがたみである。授業を受けることや友達と話せること、部活動などの当たり前に行なえていたことが、どれだけありがたいことであったのかを実感することができた。

コロナ禍は人々の命を脅かしたり、楽しい時間を奪ったりと私たちに多くの悪影響をもたらしたのは確かである。しかし、それを乗り越えることで私たちは新しい何かを見つけることができたのではないと思う。コロナ禍から得たものを活かして今後の学生生活を精一杯楽しみ、努力していきたいと思う。



4年生を迎えて バドミントン部の同期と

歯学部生の活動～コロナ禍を超えて～

歯学科4年 山田みどり

4年生になって早3ヶ月が経とうとしていますが、課題やテスト、実習に追われた忙しい日々ですが、専門科目が中心になり、歯学の知識が付き、将来歯科医師になるという実感を強く感じている今日この頃です。4年生からは昨年度よりも対面授業が増え、コロナ禍前の生活に戻りつつあるように感じています。コロナ禍での学校生活について詳しく紹介していきたいと思います。

授業について、マスクの着用や換気、アルコール消毒、検温などの感染症対策が十分にされた上での対面授業と、Zoomを利用した非対面授業が併用されています。オンデマンドの講義もあり、わからなかったところを何度も視聴することができるため大変便利でした。Zoomやオンデマンドの講義は自宅で受けることができ、時間を有効に活用することができる一方で、すぐに先生に質問できないことや、集中力が続かないなどデメリットもありました。対面授業が増えた今では、緊張感を持って授業に取り組むことができ、友達とも一緒に学べるため講義内容がしっかりと身につけているように感じます。

実習について、4月から全部床義歯の実習、6月から予防歯科学の実習が始まっています。全部床義歯の実習では、3年生の歯冠修復の実習で身につけた技術や、カービング実習で身につけた技術が役に立ち、日々の積み重ねの大切さを実感しました。講義では理解しにくかった全部床義歯の製作過程や、口腔内の構造などを実習を通して理解し直すことができました。予防歯科学の実習は始まったばかりですが、リステリンなどの洗口剤の効果について実験をしています。どの実習も基礎知識の重要性を痛感するので、専門科目が増え

た今、気を引き締めて学んでいきたいと思いました。

部活についてですが、幹部学年になったもののデンタルをはじめ、ほとんど全てのイベントが中止となってしまい大変残念に思っています。今年で引退ですが、幸運にも7月の大会に参加できることになったので、今までで一番良い結果が出るように練習したいと思います。

日常生活について、徐々に今までの生活に戻りはじめ、コロナ禍前と変わらずできるようになりましたが、大学生になったらたくさん海外旅行に行きたいと思い、念願のパスポートを取った矢先に新型コロナウイルスが流行してしまったのが大変残念です。息抜きで1年に何度も行っていたディズニーリゾートへも、チケットが全く取れなくなってしまいかれこれ1年近く行けていません。2023年には新エリアがオープンするので、それまでにワクチン接種が進み、コロナ禍前の生活に戻りつつあることを祈っています。

最後に、4年生まで無事に進級できたのは支えてくれる友達がいたからこそだと思っているので、これからも支え合いながらみんなでCBTや国家試験に合格できるように日々努力していきたいと思っています。



折り返し旅行時の記念写真

歯学部生の活動～コロナ禍を超えて～

歯学科5年 小 貴 安 紀

ついに私たち53期生は5年生になりました。入学当時、自分が5年生になり緑衣を着ている姿を想像できていた人はいるのでしょうか？この原稿を書いているのは6月下旬、CBTが1ヶ月後に迫っているところです。これまで8月に実施されていたCBTは昨年度から7月末に実施されることになり、講義や実習と並行してCBTの勉強をしなければならず、1日が24時間じゃ足りない！と焦りながら生活しているのも私だけではない…はずです。

さて今回、コロナ禍での歯学部生の活動について書いていこうと思います。昨年度はほとんどの講義がオンラインで行われ、実習のために大学に行くという生活を送っていました。しかし今年度の講義はオンライン形式と対面形式が併用で行われ、実習も昨年度と同様に感染対策をした上で行われています。オンライン講義は準備にかかる時間や通学時間が省けるため、その分時間を有意義に使えるというメリットもある一方で、講義で理解できなかったことを友人と話し合いにくかったり、質問しにくいというデメリットもあります。またグループ学習の時間ではオンラインだとなぜか話しにくく、対面の時のように活発な議論をするのが難しいと感じていました。そのような悩みも対面での講義、グループ学習が可能となった現在では少しずつ解消され、有意義な学習ができています。特に今年はグループ学習を行う機会が多く、これらは自分1人が持つ知識では思い付かなかったような考えを挙げてくれる人がいるからこそ、自分達の知識も深まり、グループの学習内容もより充実したものが出来上がります。オンラインを経験したからこそ改めて対面での学習の良さに気がつくことが出来たと思います。

また実習も新型コロナウイルスの影響を受けています。5年生の実習にはポリクリ（臨床予備実

習）と総合模型実習があります。ポリクリはグループで各診療科を周り、模型実習や相互実習を行います。しかしコロナの影響で病棟や外来を使った実習ができなかったり、相互実習も一部が変更され、模型を使って行われるようになったものもあります。ポリクリは10月から始まる臨床実習の前に学ぶことの出来る最後の機会でもあるため、例年通りの実習ができないことは残念であり、不安でもあります。しかし先生方の様々なご配慮、ご協力の上で実習ができていることに本当に感謝しています。

最後に部活動についてです。新潟大学が主管で行われるはずだったオールデンタルは中止になり、当時幹部学年であった私たちは何もかも引退した人が多いと思います。そんな中、私の所属する硬式庭球部では後輩たちが計画してくれて、感染対策を行いながら3月に先輩方の卒業試合&引退試合を行いました。久々に部員が集まりテニスをできたことは本当に嬉しく、楽しい時間になりました。今年のデンタルも中止になり、他大学との試合もできずモチベーションを保つのは難しいと思いますが、後輩たちにも少しでも楽しい思い出が残ってくれることを期待しています。

冒頭で述べましたように、私たちにはCBT、そして9月に行われるOSCEが待ち構えています。これらを無事突破して10月からの臨床実習に臨めるよう、みんなで協力し努力しながら残りの時間も勉強、実習に励んでいきたいと思っています。



5年生初日 友人と

歯学部生の今～コロナ禍を超えて～

歯学科5年 片山詩乃

あっという間に5年生になり自分が新潟に来てからもう5年も経ったのだなあと、しみじみ感じています。5年生では1人で治療計画を立て治療を行っていく総合模型実習や、週2回のポリクリ実習など昨年に比べて今まで習ってきたことが実践としてつながっていく実習が多くなってきました。総合模型実習では自分1人で考えることが多く、さまざまな診療科の内容が混在してごちゃごちゃになりながらも、治療全体の流れが分かるようになり今までより臨床的な模型実習だと感じています。ポリクリ実習では初めて人間の口腔内で器具を扱い、模型との違い、また模型でもやることがないような手技を行ったりと、着実に臨床の現場に近づいている感じがしました。どちらもまだ途中ですので、今後もっとたくさんのご経験を吸収していけるように積極的に実習に参加したいと思っています。例年の先輩方の執筆を読ませていただき、ポリクリなどの話を書かれていたと思うので、私からは最近1番印象に残っている授業科目について紹介したいと思います。

5年生の前期の講義に全身管理学という科目があります。この科目の中に麻酔管理計画という実

習があり、全身の様々な疾患を抱えた患者さんの麻酔計画を立てる、といった実習があります。私がなぜこの実習が印象に残っているかというと、単純にものすごく頭を使ったからです。一見、麻酔の計画さえ立てられれば良いのかと思いきや、歯科の教科書に載っていない、調べてもよくわからない、なんてことはザラにありました。よく知らない疾患であったら、そもそも人体の生理学や構造を復習し、学び直さなければならないこともあり、基礎科目のいい復習になったと感じました。新しく学ぶことはもちろん過去に学んだことを思い出すのも思ったよりも大変で、数人のグループで計画を立てましたが話し合いをした後には皆疲れきってしまいます。この作業は本当にも大変でしたが、最後のレポートを出す時には大きな達成感がありました。達成感だけでなく、頭を使って調べたものは記憶に残るもので、CBTの勉強に役立つ部分もあり、暗記することが苦手な私にとっては、ありがたいこともたくさんありました。また、調べてもわからないことは、先生に聞くというのも大切だと改めて感じました。この実習だけでなく、他の授業や実習でも積極的に聞いていくように心がけたいと思いました。コロナ禍と呼ばれ、制約されてしまうこともたくさんありますが、その中でも学べることは精一杯学んで行けたら、と思います。



共に麻酔計画を立てたメンバーとの1枚

歯学部生の活動～コロナ禍を超えて～

歯学科6年 小山 怜 鷹

新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちの生活はそれ以前とは大きく変わりました。当たり前だったことが当たり前で無くなり、常にマスクを身につけ、3密を避ける「新しい生活様式」に則って過ごすこととなりました。コロナウイルスの蔓延は私たち歯学部生にも大きな影響を与えました。普段の講義はZoom主体となり、実習も一部縮小して行われることとなりました。

現在、私たち6年生は臨床実習を行なっています。実際の患者さんの治療を中心に、それに伴う技工作業や先生方の診療見学、各科の分散実習など、歯科医師になるために必要な知識、技術を総合的に学んでいます。実際の患者さんの治療では、まだまだ至らない点も多くあり、1回の診療が3時間近くかかってしまうこともあります。そんな時も患者さんは嫌な顔もせず協力してください。この人のために頑張ろうと思える優しい方ばかりです。分からないことだらけな状態から実習が始まり、1日1日が一瞬に感じるほど、充実した日々を過ごしています。そんな実習の中で、先生方はとても熱心にご指導して下さいます。先生とのディスカッションでは、教科書的な話だけではなく、臨床的な意見を交えてアドバイスを下さいます。このような経験ができるのは協力して下さる患者さん、ご指導くださる先生方の支えがあってこそです。そのことを忘れず、残り3ヶ月の臨床実習に臨みたいです。

コロナ禍における臨床実習を通して感じること

は、医療従事者としての責任です。まだ一人前ではないとはいえ、私たちも病院に出て診療を行う医療従事者の一員です。時には自分の行きたい場所、やりたいことを我慢することも強いられます。忙しい日々の中、息抜きとなる休日にも我慢しなくてはならないことは正直なところ、かなり辛く苦しいです。ですが、私たちが無防備にコロナウイルスに感染するようなことがあれば、ご協力いただいている患者さんに対しての裏切りになります。今このような状況の中、臨床実習を行なっていただけることに感謝し、残りの実習を頑張りたいです。

実習を終えると半年も経たずに国家試験の日を迎えます。歯科医師となるため、今までの学生生活を有意義なものにするためには、まずは国家試験に合格することが大前提です。これまでの6年間を共に過ごしてきた52期全員で合格できるよう、お互いに得意な分野、苦手な分野を教え合い、協力していきたいと思います。そして近い将来、コロナ禍を超えたその時には、みんなで集まり、学生生活の思い出を語り合いたいです。



登院式での親友とツーショット

歯学部生の活動

歯学科6年生 田 絵 里

あっという間に最終学年となりました。私たち6年生は現在臨床実習を行っています。新型コロナウイルスの一件により、臨床実習が中止になった大学が多い中、現在臨床実習を行うことができ、とても恵まれた環境にいることを実感しています。臨床実習が始まってから、時間が瞬く間に過ぎていきましたが、一年間を振り返ろうと思います。

10月から臨床実習が始まりました。入学した頃から、早く病院実習に出たいと待ち望んでいましたが、実際に患者さんを治療するととなると楽しめるとともに不安な気持ちもたくさんありました。臨床実習は自分の予想をはるかに超える忙しさで、あっという間に時間が過ぎていきました。臨床実習では、私たちのために協力してくださる暖かい患者さん、また、丁寧に指導してくださる先生方に支えられ、臨床に関する知識・技術はもちろん、医療従事者としての心構えなど多くのことを学びました。実際の臨床現場での学びは多く、教科書からは学ぶことのできないことが多いです。新潟大学で現在臨床実習が行えているのは、先生方が病院に働きかけてくださったからこそのものだと思います。先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。この貴重な機会を最大限活かせるよう、あとわずかな実習にも熱心に取り組んでいきたい

です。

また、臨床実習の半分以上が過ぎた今、52期のみんなが今までよりも、より一層仲良くなったように感じています。学生技工室で互いに先生から教わったことを伝えあったり、つらいことがあった時には励まし合ったり、手先の器用な子が技工操作の苦手な子を助けたりと協力しています。時には、落ち込むこともあります。52期のみんなと支え合いながら、毎日楽しく過ごせているなと感じています。

6年生になってからは技工室内でも、研修先の話など将来に関する話を多くするようになりました。私自身、臨床実習が始まる頃には、将来どんな診療科で働くのか、どんな歯科医師になりたいのかは漠然としたものでした。しかし臨床実習を経験した今、学生の身分ではありますが、やってみたいことが少しずつできてきました。自分のやりたいことができるよう、また、理想の歯科医師になれるよう、あとわずかな臨床実習からできるだけ多くのことを学びたいと思います。臨床実習が終わると、国家試験が待っています。その先には、卒業し、それぞれが自分の目標を達成するための道に進みます。支え合った同期が別々の道に進むのは寂しく感じますが、新潟大学で学んだことを同期のみんながそれぞれの場所で活かし、活躍しているところを見るのが楽しみです。私も同期に負けない素敵な歯科医師になれるよう努力していきたいです。



歯学科6年生でライター米田先生を囲んで

歯学部生の今

口腔生命福祉学科2年 大塚 もも

旭町の歯学部棟に通い始めてから早三ヶ月が過ぎ、目新しかった東中通も今では見慣れた風景の一部になってきました。昨年はコロナ禍の影響を受け、オンライン授業のみの一年を過ごしました。他の歯学部生とも基本は画面を隔てた会話ばかりで、想像していたキャンパスライフとは似ても似つかないような生活も気づけば終わり、今年から本格的に専門科目の勉強がスタートしました。

去年と大きく違う点と言えば、やはりPBLが始まったということだと思います。PBLとは少人数グループの中で一つの事例を元に疑問点を出し、それに対する仮説を立て、各自で行った学習を発表・討論し、仮説を検証するという学習方法です。今までの受け身の講義とは大きく違い、どういった学習課題を立て、どこまで深く学ぶかが自分たちに委ねられています。その上、約半年ぶりに会うクラスメイト達といきなり顔を突き合わせて話し合いをするという状況もあり、最初のころはまさに手探り状態でした。今では何回か回数もこなし、講義やPBLで得た知識を参考にしながら活発な話し合いができるようになりました。PBLでは講義より分かりづらい箇所をメンバーと自分たちのペースで理解し合えたり、講義の予習復習も行えるのでとても知識が身に付きます。それだけでなく知識を応用する練習や人にわかりやすく伝える、信憑性のある情報を収集するといった、学習では得られないスキルを同時に鍛えられるため、これからも日々真剣に取り組んでいきたいと思っています。

また今年からは徐々に様々な施設や病院を見学

する機会も増えてきました。加えて現役で仕事をしている方々からお話を伺う講義もあり、実際の現場の声を知ることができました。どれも将来のイメージを持つ上でとても参考になるお話でした。中でも全てのお話で共通して触れられていたのがコミュニケーション能力の大切さでした。説明や治療への不安を和らげるだけではなく、再度通院してもらうためにも意思疎通能力は必要不可欠になるため、改めてPBLや普段の生活の中で意識していこうと思いました。今学期は医療センターと児童相談所へ見学に行くことができましたが予定していた施設すべてを訪問することはまだまだ難しい状況にあります。なので今まで以上に一回一回を大切にしながらそういった機会を十二分に活用して知見を深めていきたいと思っています。

他にも歯の彫刻をしたり三年生の解剖を見学させていただいたり、初めての体験の連続で毎日新しい発見があり、充実した日々を送れていると感じます。

これから7月を過ぎし夏休みが明け、無事テストを終えると今まで以上に多くの実習が待っています。身につけなければならない知識や課題が増えていくかもしれませんが、その分努力をし、着実に自分の力としてどんどん吸収していきたいと思っています。



新潟市本町にある美味しいかき氷

歯学部生の活動

口腔生命福祉学科3年 桜井花菜

歯学部に入學してからあっという間に2年が経ち、今年の春から3年生になりました。この原稿を書かせていただいている現在はもう7月に入ろうとしており、時間が経つのは早いなと実感しています。

新型コロナウイルスの感染拡大により、昨年度はオンラインが中心の授業でしたが、幸い今年は感染対策をしながら大学に通って授業を受けることができています。昨年の今頃は、2年生になって専門科目やPBLが始まり、初めてのことで不安に思っていました。更に、非対面式の授業だったので友達にも会えず戸惑うことが多かったのを覚えています。

今年度はすべて例年通りとはいきませんが、対面形式で授業を受け、実習が出来ることがとても有難いです。特に歯科保健指導をする実習で幼稚園へ行けたことは本当に嬉しく思います。昨年度の3年生はコロナの影響で幼稚園へ行くことが出来ず、自宅で歯科保健指導の内容を考え、目の前に子供達がいることを想定して歯科保健指導を行ったそうです。私自身、幼稚園での実習をとて楽しみにしていたので、今年も幼稚園実習は中止かなと残念に思っていたのですが、先生から幼稚園へ行って実習が出来ると聞いた時はとても嬉しかったです。しかし、コロナのために例年通りにいかない部分もありました。

例えば、本格的に歯科保健指導の計画や準備を始める前に対象者把握として幼稚園に行くのですが、例年だとその時に園児と触れ合って、どれくらいのことが理解出来るのか、どのくらいの速さで話したら伝わるのかなどを把握し、指導内容を見直します。しかし今年度は感染対策のために園児と触れ合うことは出来ず、担任の先生から話を聞くことしか出来なかったため、実際の園児がどのような感じなのかをイメージすることが難しかったです。各クラスでの指導も例年は歯みがきを実際にしながら指導が出来ていたのですが、それも今年は出来ませんでした。

今年度は出来ることが限られていて、指導内容を考えたり準備するのが大変でしたが、本番に向けてみんなで試行錯誤したり、先生方にアドバイスを頂いたりしながら準備を進めていきました。当日は、私たちの指導に対して園児が元気に反応し、楽しそうにしてくれたのがとても嬉しかったです。また、みんなで実習をやり遂げることが出来て、大きな達成感を得ることが出来ました。幼稚園実習が出来ていなければ、この達成感を得ることが出来なかったため、コロナ渦ですが実習を受け入れてくださった幼稚園には感謝しています。

3年生は福祉の授業や様々な実習が始まり、進路についても少しずつ考えていかなければいけない時期です。更に後期からは臨床実習も始まり忙しくなるので、不安なことが多いです。しかし、今まで一緒に頑張ってきたみんなや、今年から一緒に勉強していく編入生と共に、残りの大学生活を精一杯過ごして、充実したものにしていきたいです。



保育園実習での記念撮影

歯学部生の活動

口腔生命福祉学科4年 川瀬 菜々香

月日の流れというものは非常に早いもので、あっという間に4年生となってしまいました。1年後には一体どこでどのような仕事をしているのか、不安と焦りそして少しの期待が入り混じるなか、日々の実習に明け暮れております。

4年生になってからの忙しさというものには、本当に本当に何度驚いても足りないくらいに驚きます。そして、毎日休まず実習に来て、遅くまで残ってポートフォリオを書き、並行して自らの就職活動に全力で取り組むクラスみんなの素晴らしさにも日々驚かされております。当たり前のことのように聞こえるかもしれませんが、本当にきつい毎日です。みんなすごいです。真面目で一生懸命な、人間としてできた人達しかない学年に入ってしまったのだなと改めて感じる毎日です。おかげでこんな私もなんとか頑張れています。

さて、今回は「歯学部生の活動」というタイトルの元、恐縮ながら筆をとらせていただいております。そこで、私がつい1週間前まで行っていた福祉実習について少々お話をさせてください。私は、入学当初から福祉に興味を持っていたため、福祉実習は心待ちにしていた大イベントと言っても過言ではありません。楽しみでワクワクしながら実習オリエンテーションに向かいました。しかし、経験してみてもわかった大変さが山のようにあります。児童自立支援施設にて実習をさせていただいたのですが、まず、スケジュールがきつい、体力的につらい、とにかくこれが第一の感想です。福祉の仕事というものを甘く見ていたと最初の1週間で痛感し、今後やっていけるのか不安に

なったことを覚えております。次に生まれた感想は、児童とのコミュニケーションは想像以上に難しいなということです。私自身人見知りや激しく、人からとっつかれにくい人間であることも関係しているのかもしれませんが、入所児童とのコミュニケーションの取り方については試行錯誤を繰り返しました。児童自立支援施設というものは、何らかの課題がある児童が、年齢相応の行動様式をわきまえた枠組みの中で、自らの課題を克服して成長していく場です。様々な入所背景を抱え、年齢もバラバラの子どもたちにどのように話しかけたらよいか。仲良しになるための場でもないしな。それぞれの性格や特性を踏まえたうえで関わった方がよいかな。などいろいろなことが頭の中を巡っており、はじめの2週間くらいはうまく打ち解けられずに終わってしまった気がします。しかし、考えすぎでした。そんなことはどうでもいいからとにかく子どもの側にいくこと、五感を使って子どもをよく観察するということが、これが何よりも重要であるということだんだん分かるようになりました。後半はとにかく子どもといることを意識し、多くの話を聴いて、様々な活動を共にして、児童を知るということに尽力しました。子どもたちともだんだんと打ち解け、新しい一面が見えたりすることが非常にやりがいでした。毎日が新たな発見の中で、様々なことを考えさせられた有意義な実習でした。就職試験勉強とも並行して行っていたため、私の人生の中で最も忙しい1か月であると同時に、大きく自分を成長させることのできた1か月でした。

長くなってしまいましたが、大学生生活も残すところ半年ちょっとです。残りの学生生活を今後ともクラスみんなと切磋琢磨しながら、悔いなく過ごしていきたいと思っております。